

# 牛久：学校周辺に見る自然

第38号

牛久二小

2012年11月13日発行

## ＜ 秋の動物たち ④その他の動物たち＞

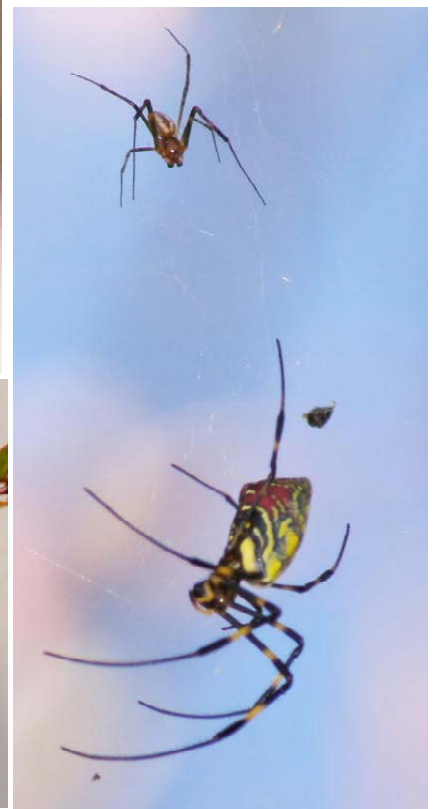
牛久二小4年2組との「校庭の秋の生き物観察」、今回は、動物編<sup>〜ん</sup>の最終です。



カメムシに近い仲間のツマグロオオヨコバイ(左：ヨコバイ科、成虫で越冬)と、ヨコヅナサシガメの幼虫(右：サシガメ科、幹のくぼみなどに集まって幼虫で越冬)。

まずは、第32号でも紹介した**ツマグロオオヨコバイ**と**ヨコヅナサシガメ**。どちらもカメムシに近い仲間(カメムシ<sup>もく</sup>目)で、注射器<sup>ちゅうしゃき</sup>のような口<sup>つきさし</sup>を突き刺して、ツマグロオオヨコバイはいろいろな植物の葉の汁<sup>しる</sup>を、ヨコヅナサシガメは他の昆虫の体液を吸います。

陽ざし<sup>ひざし</sup>の暖かい日で、ビオトープの池には**メダカ**がたくさん泳いでいました。その近くには、**ジョロウグモ**<sup>あみ</sup>が網<sup>えもの</sup>を張って獲物を待っていました。メスのおなかはだいぶ大きくなっていましたね。帰り際、水飲み場<sup>ぎわ</sup>近くのアベリアには、**ハナアブ**の仲間も来ていました。【理科支援員 宮内】



陽ざしに誘われてビオトープの池を群れ泳ぐメダカ(左上：池底で越冬)と、獲物を待ちうけるジョロウグモ(右：上の小さいのがオス。卵で越冬。)、アベリアの花にきたハナアブの仲間(右下：成虫越冬で暖かい日には活動する)。